

## ワークショップ 5

### 「消化管狭窄に対する治療の工夫」

司会 岩切 勝彦（日本医科大学消化器内科学）

梅垣 英次（川崎医科大学消化管内科学）

消化管狭窄には原疾患によるものや、治療後に生じる二次的なものもあるが、その原因にかかわらず患者の QOL を低下させる。その病態や程度に応じて、バルーン拡張術やステント留置術などの保存的な方法、外科的治療など様々な治療法が選択され、また治療後の狭窄予防対策が行われる。

本セッションでは、患者の QOL 向上を目指した消化管狭窄に対する治療を、少数例の治療経験も含めて議論したい。内科および外科の両面から多数の演題応募を期待致します。